

顔が見える。声が聞こえる。人をつなぐ。渋谷区からのお便りです。

令和2年  
(2020年) 10月15日

No.1447



発行 | 渋谷区  
編集 | 広報コミュニケーション課  
所在地 | 〒150-8010 宇田川町1-1  
電話 | 03-3463-1211 (代表)  
HP | [www.city.shibuya.tokyo.jp/](http://www.city.shibuya.tokyo.jp/)  
Twitter | @city\_shibuya  
Facebook | @shibuya.city  
Instagram | @city\_shibuya\_official  
LINE | @shibuyacity



公益社団法人 温故学会の皆さん

全盲の国学者・塙保己一の偉業をたたえて。  
進化を続ける渋谷で、温故知新。

2	塙保己一が『群書類従』を通じて、	4	来年度小学校へ入学する新1年生の	8	第43回渋谷くみんの広場	12	くらしの情報
3	現代に伝えるメッセージ。	7	就学時健康診断を行います ほか	11	ふるさと渋谷フェスティバルオンライン ほか	15	

渋谷区基本構想が掲げる渋谷区の未来像「ちがいを ちからに 変える街。渋谷区」



# 塙保己一が『群書類従』を通じて、現代に伝えるメッセージ。

渋谷のラジオで出張インタビュー 渋谷区東の「塙保己一史料館」を運営している公益社団法人 温故学会代表理事の齊藤幸一さんに、江戸時代の国学者・塙保己一の偉業や生涯、その生き方から得られる学びについて伺いました。



塙保己一のことを知らないという方もぜひ気軽に来館してください。

公益社団法人 温故学会代表理事 齊藤幸一さん

## 6万冊を暗記し、40年かけて『群書類従』を完成。

### ——公益社団法人 温故学会とは、どのような組織なのでしょう？

齊藤：江戸時代に活躍した全盲の学者で、『群書類従』という日本初の出版事業を手掛けた塙保己一(1746~1821)の偉業を広く知らせる目的で、明治42年に設立された学術文化団体です。塙保己一のひ孫にあたる塙忠雄が初代理事長となり、当時の顧問には「日本の資本主義の父」と呼ばれる渋沢栄一をはじめ、國學院大學学長の芳賀矢一、宮中顧問官であった井上通泰といった方々が名を連ねました。現在は、役員、正会員、研究員、顧問、賛助会員からの支援をいただき、「塙保己一史料館」を運営する他、講演活動なども行なっています。

### ——塙保己一とは、どのような人物だったのでしょうか？

齊藤：塙保己一は埼玉県本庄市で生まれ、7歳の時に病気がもとで失明し、15歳で江戸にやってきました。当時の日本には、盲人一座(当道座)という視覚障がい者の職業組合のような組織があり、保己一はそこで鍼やあん摩、三味線などを習ったわけですが、どれも身に付きませんでした。しかし、学問は大好きで、記憶力が抜群に良かったんです。その記憶力は周囲の人に読んでもらう本を一字一句間違えずに覚えてしまうほどで、生涯をかけて6万冊ともいわれる文献を暗記したそうです。やがて、日本に古くから伝わる貴重な文献の多くが焼失や散逸によって失われつつあることに気が付き、それらを全国から集め、内容を吟味し、正しく校正し

たものを後世に残す必要があると考えました。そして40年もの歳月をかけて完成させたのが『群書類従』という一大文献集です。ここには666冊に及ぶ膨大な文献資料が収められており、中には『竹取物語』『伊勢物語』といった有名な文学作品もあります。さらに、保己一は現在の大学にあたる「和学講談所」を設立して後進を育成し、盲人一座のトップである総検校として盲人の地位向上にも努めました。

### ——驚異的な記憶力と行動力を持った国学者だったんですね。

齊藤：学者というイメージがあるかもしれませんが、保己一はとても親しみやすくユーモアのある人物だったそうです。目が見えないというハンデもネガティブに捉えることなく、前例のないことにも果敢に挑戦しました。そうした保己一の人柄や生き様が周囲の人たちを引き付け、多くの協力を得て『群書類従』という一大事業が成り立ったのです。

## 登録有形文化財の建物に重要文化財の版木がずらり。

### ——温故学会が、現在地(渋谷区東)に建てられた経緯について教えてください。実業家・渋沢栄一も関わっていたと聞きました。

齊藤：初代理事長の塙忠雄が亡くなった後、忠雄に師事していた私の祖父・斎藤茂三郎が第二代理事長に就任しました。そして『群書類従』の版木を安全に保管するという遺志を継ぎ、渋沢栄一に協力を仰いで、昭和2年に皇室御料地であった現在地に会館(塙保己一史料館)を建設しました。この辺りは、白根記念渋谷区郷土博物館・文学館、國學院大學博物館、氷川神社、金王八幡宮といった名所もある都内有数の文教地区で、高台に位置するため水害の心配もありません。そうしたことから、この場所が文化財を保管するのにふさわしいということになったんです。駅からは上り坂でちょっと大変ですが(笑)、静かで落ち着いた雰囲気の中でじっくりと歴史に触れることができる、とてもいい場所です。

### ——竣工93年目を迎える、歴史的建造物なのですね。

齊藤：発展の著しい渋谷にあって、このクラシックな建物は大変珍しいと言えますね。平成12年には文化庁より「登録有形文化財」に指定されました。大正ロマンを感じさせる建築は左右対称となっており、エントランスの2本の円柱は鳳凰の脚を表し、まさに翼を広げ飛び立つような姿を表現しています。渋沢栄一の案によって、当時としては画期的な鉄筋コンクリートで造られており、建物が大変頑丈なことも、戦争や地震に耐え抜くことができた理由の一つかもしれません。東京大空襲の際は必死の消火活動によって版木を守り抜き、戦後の経営悪化もたくさんの方々の方々の支援とともに乗り越えて今日に至っています。

### ——館内には、どのような展示物があるのですか？

齊藤：『群書類従』の版木は重要文化財に指定されており、当館では17,244枚を全て当時のまま保管しています。東京都と渋谷区の

重宝指定となっている『御江戸図説集覧』版木なども合わせると約2万枚の版木があり、全て来館者が自由に手に取って見ることができます。また、現在でも希望者には、重要文化財の版木を使って摺りたて、和本を作製して、お配りする活動も続けています。これは、より多くの人に『群書類従』を活用してもらいたいという保己一の精神に基づいています。館内には版木以外にも、ヘレン・ケラーが来館した際に手を触れた「塙保己一銅像」や88歳の渋沢栄一が書き下ろした「温故知新」の書などが展示され、何時間も滞在される人もいらっしゃいますよ。

### ——昭和12年にはヘレン・ケラーも来館しているんですね。

齊藤：ヘレン・ケラーが来られた際は「私は母から塙保己一先生をお手本にしなさいと励まされて育ちました」と話され、版木や銅像に触れて涙を流されたそうです。今でも国内外から視覚障がいのある人が来館されますし、塙保己一について知りたい人、『群書類従』の版木を見たい人、登録有形文化財の建物に興味がある人、通りすがりの人など、国籍も年齢も目的もさまざまです。また、渋谷区の小学生が社会科見学で来ることもあり、その際は2階の講堂で「紙芝居・塙保己一ものがたり」を使用してお話ししています。

## 前向きに考え、努力を重ね、世のために動く。

### ——塙保己一の生きる姿勢から学ぶべきことがたくさんありそうですね。

齊藤：保己一は視覚障がいという大きなハンデがありながらも、大好きな学問の道を歩み、誠実にコツコツと努力し、「世のため、後のため」と言って、常に人の役に立ちたいと考え行動しました。そして、点字も録音機もなかった江戸時代に、世の中から一目を置かれる大学者になったんです。紙芝居を通して子どもたちにこの話をすると、みんな真剣に聞いてくれて、「保己一は偉い人ですね」「自分も頑張りたいです」などと感想を述べてくれるのが、とてもうれしいですね。「前例がないから」「やっても無駄」といった先入観や差別、偏見を持たずに、それぞれの個性を最大限に生かすことの大切さを、子どもから大人まで、多くの人に知ってもらえればと思います。

### ——時代や街の移り変わりを見てきた中で、これからの渋谷に期待することはありますか？

齊藤：渋谷は世界的に見ても最先端の街で、駅周辺もまだまだ再開発が続きます。その中であって、「古き良きもの」を継承し伝えていくことが私たちの使命だと思っているんです。温故学会の名称は「論語」の「温故知新(ふるきをたずねてあたらしきをしる)」に由来しているのですが、この精神を街づくりにも生かしていただきたいですね。現代は新型コロナウイルス感染拡大や自然災害の多発など、さまざまな課題を抱えています。保己一が生きた江戸時代もまた、感染症や自然災害との闘いでした。世の中にはさまざまな情報があふれていますが、一人一人がしっかりと考えて行動していくことが求められています。保己一の

成し遂げた偉業や生きる姿勢から何かヒントを得ていただけたらうれしいです。

### ——最後に、渋谷区民の皆さんにメッセージをお願いします。

齊藤：私たち温故学会は、渋谷の街とともに歩んできた団体です。「江戸時代の版木を摺ってみよう」「渋谷歴史と文化の散策ウォーキング」といったイベント\*を開催して、区民の皆さんとも積極的に交流を図ってきました。文化財はただ「寝かせておく」ものではなく、多くの人に見て知ってもらうことで、時代を超えて「生かされていく」ものです。塙保己一のことを知らないという方も大歓迎ですので、ぜひ気軽に来館して、「温故知新」を体感してみてください。

\*15ページにイベント情報を掲載しています。



▲ 塙保己一史料館の外観。昭和2年に鉄筋コンクリートで建設された。



▲ 『群書類従』の版木。文字が凸彫りされており、今もこれらの版木に手摺りで製本している。



▲ 『群書類従』版木倉庫には、重要文化財である全17,244枚の版木が収蔵されている。



▲ 昭和12年4月26日にヘレン・ケラーが来館。

## ● 公益社団法人 温故学会とは？ ●



江戸時代の国学者・塙保己一の偉業をたたえるため、明治42年に設立。版木の摺りたての頒布、盲人福祉事業、さまざまな啓発活動などを行う。運営する塙保己一史料館では、『群書類従』を含む約2万枚の版木を保管している。

開館時間：平日9:00~17:00  
住所：渋谷区東2-9-1  
入館料：大人100円(小中学生まで無料)  
(☎・FAX)3400-3226

塙保己一史料館・温故学会HP▶



齊藤幸一さんへのインタビューは10月20・27日に「渋谷の星」で放送します。

問 広報コミュニケーション課 広報係 (☎)3463-1287 (FAX)5458-4920

渋谷区の番組を放送中です  
ラジオ しぶや区ニュース (10分間) 月~木 11:00/16:00/21:50 「しぶや区ニュース」の情報を発信します。  
渋谷の星 (45分間) 火 11:15 渋谷区で活躍する人たちが登場します。  
渋谷のくらし (30分間) 火 16:20 地域の催しなどの様子を伝えます。  
ラジオ しぶや区ニュース (区長の部屋ほか) (10分間) 金 11:00/17:00/19:50 長谷部区長が出演します(ラジオしぶや区ニュースの内部になる場合あり)。

「しぶや区ニュース」では毎月、「渋谷のラジオ」と連動したページを掲載。「しぶや区ニュース」と「渋谷のラジオ」が連携して、人と人のつながりが広がる紙面を届けています。

周波数: 87.6MHz FM ☆公式アプリでも聴取可能  
所在地 | 渋谷3-22-11 サンクスプライムビル1階 TEL | 6712-6876  
FAX | 5778-9620 E-MAIL | info@shiburadi.com HP | shiburadi.com/